

JR東海労なごや

2013年3月1日 No. 942
JR東海労名古屋地方本部
発行者：山田哲也
編集者：堀部肇

また、リニアの問題が月刊誌に掲載される！

『望星3月号』に「夢の超特急の暴走（下）ーリニアモーターカーは必要なのか」の記事が載りました。2月号に続いての掲載です。主な内容は、計画沿線の地方自治体がりニア推進の立場のみで動いていること。ドイツ・中国のリニアの現実などで書かれています。

計画沿線の地方自治体がりニア推進の立場のみで動いていることに対しては、昨年12月9日に東濃リニアを考える会が開催した「リニア中央新幹線と地域環境を考える学習会」での中川鮮元中津川市長の発言を載せています。「地域には、事業者もいれば住民もいる。そのすべてに公平であるべきなのが役所です。ところがリニアに関しては、なぜ役所の中にリニアを推進する課がある。初めから事業者の側に立っている」(中川鮮)と言っています。つまり、役所は住民を置いてきぼりにしてリニア推進の旗振りをしているということです。

この様な現実の中で、名古屋地本は東濃リニアを考える会とともにリニア中央新幹線建設問題を広める取り組みを進めています。



【望星3月号】より

リニアに大きな疑問あり！

中津川の女性の話

住民Aさん「電磁波が心配です。説明して下さい」

市職員「大きな利益の前では、そんな小さな事は問題にならない」

推進派だけで進めるのはダメだ！

徹底的な議論が必要だ！

住民の意見に耳を傾けるべき！